

といちくだよい

7
月号
July

発行責任者 / 鎌谷 一也 編集責任者 / 西村 京二 2009(平成21年) 7月号 鳥取県畜産農業協同組合



若葉台小学校田植えの様子

あこし(40年に向けて)

常務理事 橋本 幸雄

300年間で、現業職員5名だったのがパートさん入れると100名と200倍、美敷牧場で月5頭出荷から始まったコトブ鳥取牛が月100頭、年間1200頭出荷と200倍、事業高は10倍に、当時の東伯町農協食肉センターでカットしてもらい京都生協に出荷していたのが年間3000頭を処理できる自前の工場を持つまでになることを30年前にはまったく想像すらできませんでした。当然、この30年が何事もなく順調で今日に至ったわけではないことは充分わかっています。組合として認知してもらったことに一生懸命だった最初の10年間、事業が順調に伸びた次の10年間、BSEの発生による畜産を取巻く環境の変化に取り残されないうように、全国でも先進的な取り組みに「たたり鳥取牛」耕畜消の循環型畜産、飼料稲の栽培、ISO22000取組んだ10年間であったと思います。来年は、設立30周年です。また、次の10年後40周年に向けて出発の年でもあります。もう一度過去の30年をしっかりと見直し、今、農業が大きく変わろうとしている中、今後10年間を見据えてBSE後の10年間に蓄積したであろうノウハウを充分に発揮するために、「04-08中長期計画」で何が足りなかったのかを整理したうえで、本年度「特別委員会」で検討される「次期中長期計画」にあたりたいと思います。

私自身の日常業務を行うにあたり「乳肉同源」耕畜連携、「産直」地産地消を念頭に置いてこの2年間स्टート感をもって動き、必ず次の10年につながる動きを心掛けています。みなさんの協力を是非ともお願いします。

乳肉同源：酪農家の肉資源であるオス仔牛と経産牛の付加価値を高めることが鳥畜の「本業」として考えています。特に経産牛は牛乳、大山乳業のブランドと直結しており、価格面で消費者のニーズに最も対応できるお肉であることは現在でも変わりありません。安定供給を目指すには大山乳業、各JAとの連携をもっと密にして鳥取の貴重な肉資源が県外に流出しない仕組みを考えたいと思っています。

耕畜連携：(株)東部コントラクターの運営強化(自立)を図るとともに、飼料稲だけではなくすでに取組んでいるコンや飼料米生産にも積極的に取組んでいくべきだと思います。また、提携肥育農家が稲ワラの確保が困難となったため、(株)東部コントラクターのシステムを中部、西部地区にも導入し自給粗飼料での肉牛生産が継続でき、そして肥育農家の経営安定に役立てればと思います。

産直 地産地消：生協直売所での売上高は6割を占めています。人が、時代が変わったと嘆いていてもしかたありません。鳥畜のお肉を食べ続けてくれている消費者を大切に思い、以前よりもこちらから積極的に行こうと働きかけて行かなければならないと思います。

10年後には、鳥取の乳牛と言えは大山乳業、鳥取のお肉と言えは鳥畜となることを願っています。

平成21年度 役職員視察研修会報告

(シリーズ第3回 最終回)



視察先 高知県高知市畜産試験場・齊藤牧場・鹿嶋牧場 日程 平成21年4月7日～8日

役員視察研修会

総務事務管理部マネージャー 遊佐 琢男

今回の視察では輸入粗飼料に頼らない酪農経営について学んできました。

1日目、試験場の横山研究員の案内を受け、場内視察では現在、褐毛和種を利用して急傾斜での放牧とシバ草地の造成と利用の研究をされている状況について説明をつけるなかでは、酪農から肉用牛へ寒地型牧草から野シバ草地へと試行錯誤の繰り返しがあったように、さらには地域の地形を利用したことにより、省力で低コスト経営に近い将来に実現できればと学んだところです。我が鳥取県においても耕作放棄地 売れた中山間地域を利用した、放牧牛(酪農肉専繁殖)等での低コスト経営での生きのこりが図られるのではと考えられました。

また、試験場においては、産肉能力の優れた種雄牛の増殖(褐毛和種)受精卵移植事業等の試験に取り組みをしていました。

2日目、山地酪農の齊藤牧場では平地から中山間地帯へ移り酪農経営について視察しました。放牧地23ha、採草地5ha、乳牛、成牛27頭、育成13頭、出荷乳量110tと年間3000時間位で3人で作業し、周りを見渡せば、山地で傾斜も急と人が歩けるかと考えさせる程になっている所を、牛が道を作り放牧されている状況ですが、夏場には渇水のために、放牧場へ水を散水施設も整備している、施設を整備することは大変な労働力が予想された、山地酪農の齊藤さんは、道路も個人が整備したことから、急傾斜地の草地は牛が道をつけるといふこと。特に日本シバを利用しています。

鹿嶋牧場について、傾斜地を利用して放牧を実施しています。鹿嶋牧場は、教育ファームとアイスクリーム工房などの経営となっています。

今回の視察で得たことは、地域にあつた酪農経営をすることが一番と、やる気をもって、何事も取組んでいくことが大切だと思います。

視察でお世話になった、高知県畜産試験場の横山氏をはじめ中央家畜保健衛生所の方々には、大変お世話になりました。

昇格・人事異動

昇格

名前	旧役職	新役職
遠藤 憲明	(株)東部コントラクター専務(リーダー)	マネージャー

異動

名前	旧部署	新部署
竹仲 竜次	(株)美歎牧場(出向)	生産事業部 指導課



若葉台総事の様子



作業後はとてもきれいになりました。ありがとうございます。



若葉台小学校ドローン田植え

総務事務管理部 森田 真美

6月11日(木)午後1時半から若葉台小学校5年生と先生方、酪農家のお母さん方、環境大学のお兄さん、お姉さん、鎌倉組合長、(株)東部コソトラクター 遠藤専務、研修生で恒例の田植えをしました。
小学生の子ども達、酪農家のお母さん方は裸足で田んぼの中に入って元氣よく苗を植えていました。初めて裸足で田んぼに入る子ども、家の手伝いで入ったことのある子どもと様々でしたが、「気持ちいい!」とか「気持ち悪い!」とか「変な虫がいる」などいろんな声が聞かれました。なんだかんだ言っても楽しくしているようだったので良かったと思います。
作業後の美敷牧場の手作りアイスクリームも、とても天気が良かったのでよりおいしくて子ども達も大人も満足顔でした。
お手伝いしてくださった環境大学の学生の皆さん、酪農家のお母さん方、コソトラクター 専務には大変お世話になりました。ありがとうございます。秋には稲刈り、年末にはお餅つきと行事がありますので、今後ともよろしく願っています。



6月の主な日程

日付	行事
6月 1日	夕礼
6月11日	若葉台小学校田植え
6月16日	若葉台総事
6月17日	食肉委員会
6月18日	生産委員会
6月19日	総務委員会
6月24日	第6回理事会
6月27、28日	しが・京都 鳥取フェア

7月の主な日程

日付	行事
7月 3日	夕礼、辞令交付
7月 8日	特別委員会
7月 9日	ISO全体集会
7月15日	美歎牧場総事
7月21日	生産委員会
7月22日	食肉委員会
7月23日	総務委員会
7月25、26日	モーモーキャンプ京都
7月30日	第7回理事会

しが京都鳥取フェア開催

営業部 漆原 恵子

6月27日(土)・28日(日)の2日間、京都生協の店舗におきまして、鳥取フェアが開催され、鳥取県産の美味しいものがたくさん勢ぞろいしました。

鳥畜からは、おなじみのサーロインステーキを生産者の方を交えて店頭で試食販売をしました。

ステーキを美味しく焼くコツなどを直接お客様と会話しながら鳥取牛の美味しさをピタールでき、販売の拡大に繋がったのではないかと思います。



編集後記

早いもので6月も終わり、7月になりいよいよ夏本番という季節になりました。

もう梅雨明け?と思うような日が続いていましたが、まだ梅雨だといふのに6月はジメジメした日があり無かった気がします。暑くていい天気が続いていた気がします。

先月のとりちくだよりも少し書かしてもらいましたが、お待たせしていましたホームページをやっと7月にオープンできそうです。

これを基にとりちくの名前と牛肉の消費拡大につながれば大変うれしく思います。今後ともよろしくお願いたします。

(もりた)

お問い合わせ先

鳥取県畜産農業協同組合

住所:鳥取市若葉台南7丁目2番11号

Tel:0857-52-1129

Fax:0857-52-1131

e-mail:info@torichiku.or.jp

HP:http://www.torichiku.or.jp